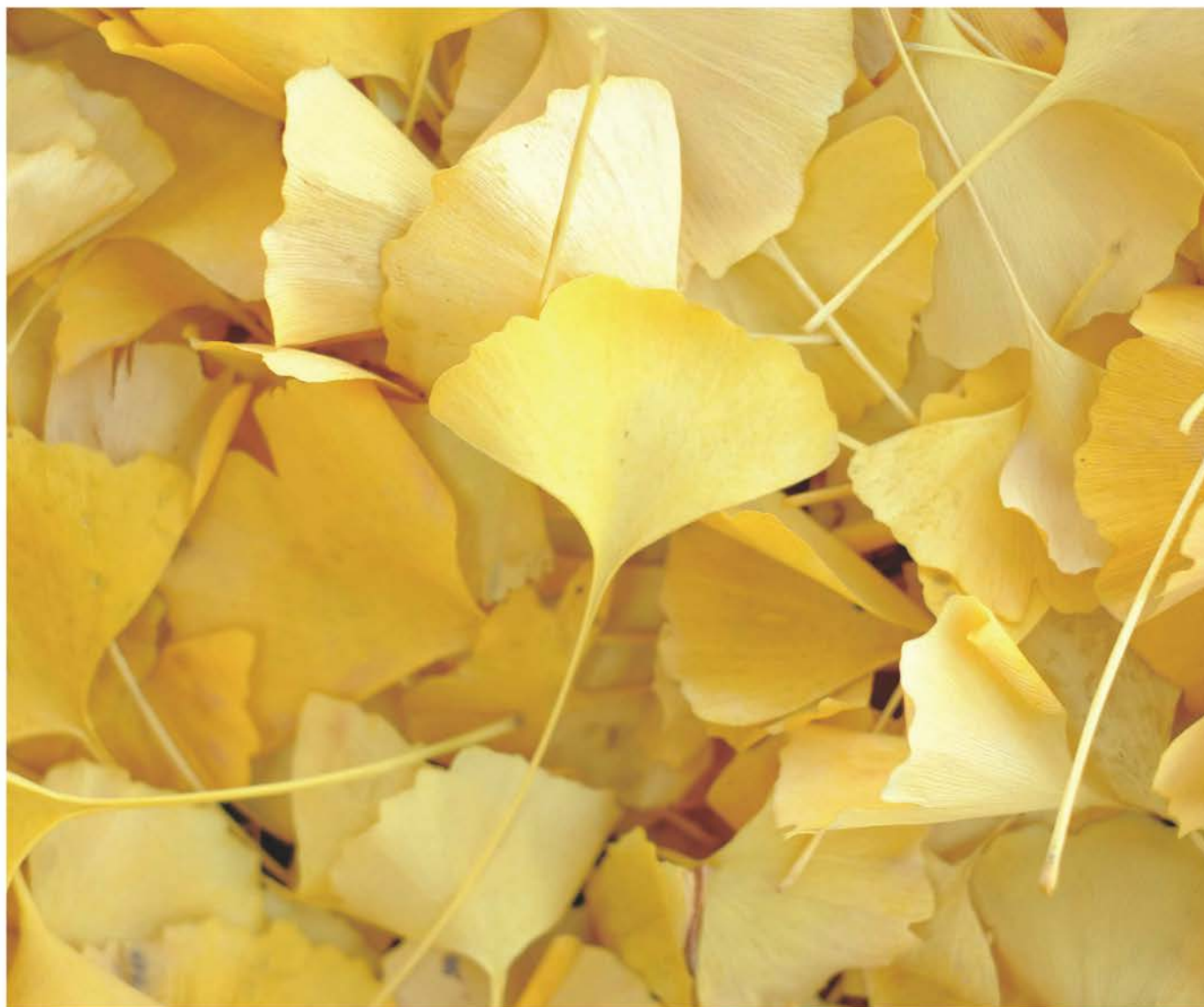


あおぞら

第70号



医療理念

1. 医療の原点に立った心温まる医療
【Humanism】
2. 高度医療の提供
【High Level】
3. 職員一同連携し仕事を通じての
人間的成長 【High Growth】

目次

C型肝炎ウイルスの治療	2
消化器内科より	3
絆通信～DPST「認知症心理ケアサポートチーム」～	4～5
糖尿病セミナーを開催しました	6
部署紹介	7
NEW FACE / バスケットボール部	8
私と野球の出会い	9
外来週間診療予定表	10

特定医療法人

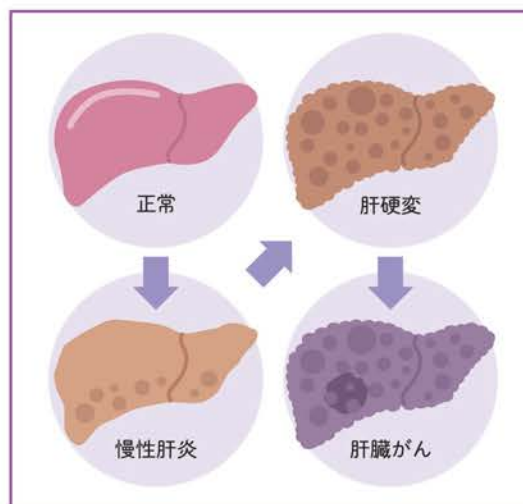
C型肝炎の治療 (全ての患者さんが治療を検討できる時代に)



消化器内科部長
馬渡 文弘

C型肝炎ウイルスは感染すると7割が持続感染し慢性肝炎、肝硬変、肝がんと高率に進展します。我が国では1992年よりインターフェロン治療が開始されました。インターフェロン単独療法は日本人の多数を占めるゲノタイプ1型高ウイルス症例でウイルス消失率(SVR)は極めて低率でした。その後インターフェロン単独からリバビリン併用、さらにペグ化したインターフェロン(pegylated interferon; Peg-IFN)とリバビリンの併用が標準的な抗ウイルス治療となりました。ゲノタイプ1型・高ウイルス症例ではSVR率が40~50%で、約半数の人が治癒しない状況が続きました。2010年代に入ると、C型慢性肝炎に対する経口の抗ウイルス薬(direct-acting antiviral:DAA)が登場し、2014年7月には2剤の経口抗ウイルス薬併用療法が日本で初めて認可されました。現在8週から12週の短期間の服用で高率(90%以上)にSVRを得ることができるようになりました。それまで行われていたインターフェロン治療は発熱、頭痛、筋肉痛などのインフルエンザ様症状や食欲不振、嘔気などの消化器症状や脱毛などもみられ治療にはかなりの気力体力が必要でした。このため高齢者や肝機能正常者の中には治療を受けていない患者さんもいらっしゃると思います。経口抗ウイルス薬はインターフェロン治療に比べ副作用も軽く、低率でSVRも90%以上と良好です。日本肝臓学会作成のC型肝炎治療ガイドライン(第8.3版)ではその抗ウイルス治療の対象を非代償性肝硬変を含むすべてのC型肝炎症例とし、年齢、ALT値、血小板数にかかわらず、すべてのC型肝炎症例に対して抗ウイルス治療を検討することを推奨する。と記されています。治療が必要な患者さんがおられましたら当院でも治療可能です。ご相談ください。

参考文献:日本肝臓学会 肝炎診療ガイドライン作成委員会(編):C型肝炎治療ガイドライン(第8.3版)2024年5月



消化器内科部長
中鋪 卓



当院の内視鏡室では2024年8月に新たな内視新システム(FUJIFILM:ELUXEO8000)と内視鏡AI画像診断支援システム「CAD EYE」を導入しました。

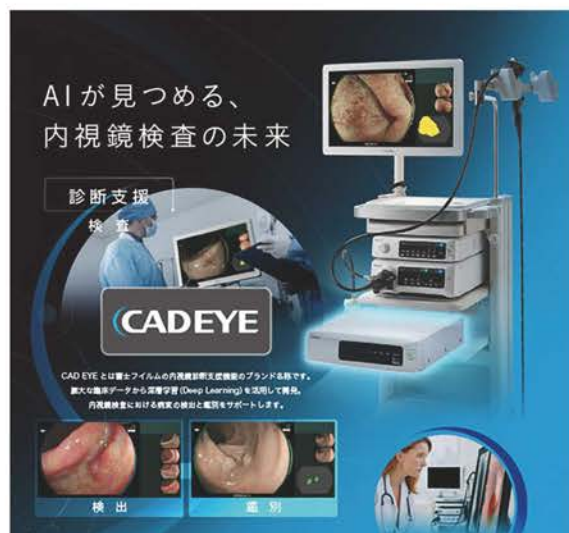
人工知能(AI)を搭載した上部内視鏡(胃カメラ)および下部内視鏡(大腸カメラ)によりAIが病変をリアルタイムに検出し鑑別を支援することで、見落としリスクの低減と高精度な内視鏡検査が可能となりました。

また、今回新たにコンベックス型超音波内視鏡(FUJIFIRM:EG-740UT)も導入し、当院では初めて超音波内視鏡検査(EUS)や超音波内視鏡下穿刺吸引術(EUS-FNA)による精密検査も可能となりました。

超音波内視鏡は先端に超音波装置のついた内視鏡であり、消化管の中から消化管壁や周囲の臓器(膵臓、胆管、胆嚢、リンパ節など)を詳細に観察する検査法です。通常の腹部超音波検査と比べて消化管ガスや脂肪、骨などの影響を受けにくく、高い空間分解能を有していることから微小病変の検出にも優れており、特に膵臓がんの早期発見や消化管腫瘍・粘膜下腫瘍の評価に有用とされています。また、EUSで病変が描出されれば、従来の検査では組織の採取が困難であった病変に対しても、特殊な針を用いた超音波内視鏡下穿刺吸引術(EUS-FNA)を行うことで安全かつ確実に組織を採取することが可能となり、正確な病理診断が得られ適切な治療方針を決定することができます。

これらの精密検査は通常の検査と比べて内視鏡が太く、また検査時間を要する(約20-30分)ため、患者さんには鎮静剤を使用してなるべく負担が少ない検査を心がけています。

これらの内視鏡機器導入により当院では消化管腫瘍に対する内視鏡治療(EMR、ESD)や胆道・膵臓疾患に対する検査・治療(EUS、EUS-FNA、ERCP)など積極的に行っておりますので、適応となる患者様がいらっしゃいましたらいつでもご相談下さい。





『絆通信』～DPST 「認知症心理ケアサポートチーム」～

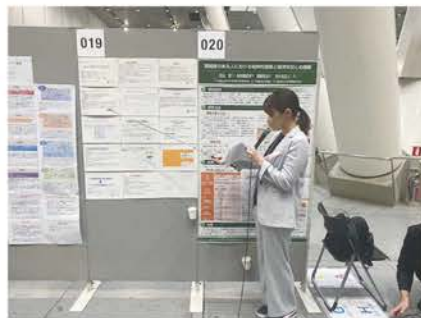
✓ 認知症ケア学会大会へ参加してきました

令和6年6月15日～16日、第25回日本認知症ケア学会に参加させていただきました。

当院の認知症心理ケアサポートチームには、多職種の認知症ケア専門士の有資格者が在籍しており協働しています。今回チームより「認知症サポートチームと地域多職種の連携が患者と家族の治療継続にもたらす効果」と「インスリン注射が困難であった認知症患者に多職種チーム医療介入が有効であった一例」の2題の発表を行いました。チーム活動の方法など多くの質問をいただきさらに学びの場となりました。事例報告においては学会後、事例ジャーナルの寄稿のお話をいただき現在、再構成を行っています。今後も、風通しよく多職種で連携する当チームの強みを十分に発揮し、知恵を出し合い、患者・家族サポートに精進していきたいと思えます。

認知症があっても、当たり前前の生活を幸せに送っていただけるようチームで結束し院内外での活動を続けていきたいと思えます。

記:薬剤師 中司 梨紗



✓ 『認知症の方への声かけ体験会』をサポートさせていただきました

令和6年7月6日に西北・岩屋ふれあいセンターにて開催された、長崎市岩屋地域包括支援センター主催の「認知症の方への声かけ体験会」に当院の認知症心理ケアサポートチームのメンバー5人で参加してきました。

今回は「みまもりあい」というアプリを使用して検索依頼が出ている高齢者を探し、声をかけ、警察に通報するまでの体験を行うというものでした。その中で私たちは高齢者役や声かけ体験を行っている方のサポートを行い、院内外での多職種で連携を図りながら地域の方々との交流を深めることができました。

参加された地域の方からは、「認知症の方への接し方を学べてよかった」「参加してよかった」等の意見や「実際に困っている方を見かけてもきちんと対応できるか不安」「なんて声をかけて情報を聞き出さばよいか分からず、難しいと感じた」等の意見もありました。グループに分かれ、意見交換を行う事により認知症の方役、警察官役の方からも「急に名前を聞くのではなく世間話から始めると緊張感が和らぐ」「警察に通報する場合は相手の情報を詳しく伝えないと分かりにくい」等、貴重な意見も聞くことができ、サポート役ではありましたが、声かけ体験会を通して様々なことを学ぶことができました。

近年、認知症高齢者は増加しており、今後も更に増加し続けると思われます。行方不明となる認知症患者

者を一人でも減らせるよう、地域の方々と協力し、誰もが暮らしやすいと思える町づくりに貢献していきたいと思います。

記：作業療法士 南 真唯子



☑ 認知症ケアマフを導入しています

認知症のある人だけでなく、誰にとっても急性期病院での生活は非日常です。点滴ラインや酸素チューブなど、いつもない物が体に繋がれている環境は、落ち着かないことと思います。時に点滴ラインが気になって外してしまう人や、急な環境の変化に戸惑いベッド柵を握りしめている人がいます。また現場では、身体拘束以外のさまざまな方策を探し試みますが、やむを得ず身体拘束が行われることがあります。治療や安全を守るためとはいえ、患者さんはとても辛いと思います。ご家族においても、家族が手足の自由を奪われる姿を見るのは気持ちが良いものではありません。このような場面でも、英国発祥の認知症ケアマフが、認知症のある人の関心を引き、ライン類が気にならなくなったり柔らかい手触りで心穏やかにリラックスしてもらう効果があると言われています。

この認知症ケアマフは、以前より当院でも導入を検討しておりました。今回、先に報告した学会において、学びを深め、『認知症患者とケアする人の優しさを繋ぐケアの活動報告』としての発表もあり、当院でも導入を決める機会となりました。身体拘束の最小化や、認知症のある人が穏やかに過ごして頂けるよう『ぜひ取り入れたい』との思いで、有志での『編み物チーム』を結成し活動しています。また地域施設の『編み物サークル』へ作成を依頼したところ、快く引き受けて下さり、地域一体で認知症患者を支援する取り組みがはじまりました。

病院内外の地域ぐるみで交流を深めながら『誰かの役に立ちたい』という『優しさの輪』が広がっていくことを期待しています。

記：精神保健福祉士 平瀬 万里



～ケアハウス みずほの「編み物サークル」のみなさん～

第17回 光晴会病院糖尿病セミナー

世界糖尿病デー

開催日時：2024年11月15日(金) 14:00~16:30
 場所：光晴会病院 新棟8階ロビー・会議室②③



ご参加の皆様お疲れ様でした!



11/14の世界糖尿病デーにちなんで開催された今回のセミナー。総計48名の方にご参加いただき、盛況のうちに終了いたしました。展示コーナーや体験コーナー、講演などで糖尿病に関する知識を深めていただけたと思います。



血糖・血圧測定コーナー

健康相談コーナー

体力測定コーナー



世羅医師



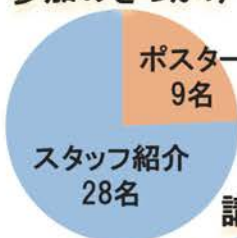
篠崎顧問



赤澤医師

アンケート結果

参加のきっかけ



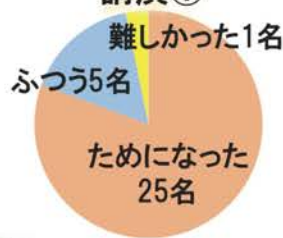
体験コーナー



セミナーの時間



講演①



講演②



講演③



※ご協力ありがとうございました

【今後のセミナーについて】・野菜の摂り方 ・採血について ・治療薬など詳しく聞きたい
 【その他、ご意見など】・食事は食べたい時と食べたくない時があるので調整してもいいでしょうか？
 ・食事で悩んでいたが今日の話聞いて楽になった ・基本はしっかり、時々自分を甘やかして頑張ります
 ・前よりは薬のことが分かった ・毎年1回はこのようなセミナーを開催してほしい ・今後も続けてほしい
 ・準備や会の運営など参考になった ・体験コーナーが狭く、スタッフも不足していた ・講演と体験コーナーを別にしてほしかった
 ・画面の字が小さく見えにくい ・会場が暗すぎてメモができなかった ・ビデオの音量が小さく聞こえにくかった ・インクレチンは理解できなかった ・聞き取りにくく、難しかった
 ・血糖血圧測定コーナーが設けられていてよかった ・とても楽しく糖尿病のことが分かった ・よく準備されていて感心した

部署紹介 薬剤科

薬剤科は2023年、2024年と2年連続で新しく新卒の薬剤師を迎えました。現在薬剤師11名、調剤助手2名のメンバーで業務を行っています。医師や看護師とのタスクシフトに積極的に取り組んでいて、2023年8月より入院患者の定期処方代行業務を行っています。薬剤師が定期処方代行業務を行うことで、持参薬から入院処方への切り替えがさらにスムーズになりました。また薬の日数切れが統一され、与薬カートへの薬セット業務が改善され、病棟看護師の与薬準備の負担軽減に大きく貢献しました。この取組は日本病院薬剤師会のホームページでも紹介されています。

入院時持参薬管理業務の実施に加え、抗がん剤無菌調製、化学療法室での服薬指導、病棟薬剤業務、がん患者管理指導を実施しています。

さらに退院や転院時に調剤薬局を含めた

各医療機関で薬学的管理を継続するため、お薬手帳発行、副作用やアレルギー情報、入院時の治療内容を記入しています。転院時には薬剤管理サマリー発行を行っています。

抗がん剤化学療法においては、当院で使用される化学療法のレジメンを一元管理しており薬薬連携と安全な薬物療法の推進のため、レジメンの病院ホームページへの掲載も行っています。レジメンの公開は薬局薬剤師の先生に大変好評で、好事例として学会で紹介されました。2017年6月よりかかりつけ薬局の先生方と「薬薬連携の会」を開催し、情報共有に努めています。

このように薬剤科の取り組むべき課題は多岐にわたりますが、病院の他の医療スタッフと連携し、科員が一致団結して、「医薬品の安全使用の推進」を目的として努力を続けたいです。

 特定医療法人 光晴会病院

第19回 光晴会病院 薬薬連携の会 (がん薬物療法)

謹啓
先生方におかれましては益々のご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、この度下記日程にて「光晴会病院 薬薬連携の会」を開催させて頂き運びとなりました。ご多忙中かと存じますが、万障お繰り合わせの上ご参加賜りますようお願い申し上げます。 謹白

【日時】 2024年7月16日(火) 19:00~20:00
【形式】 ハイブリッド(現地+WEB)開催 WEB:ZOOM
【場所】 医療法人 光晴会病院 8階会議室
(長崎市薬山1丁目3番12号 TEL:095-857-3533)
※当日は食事の準備しておりませんのでご了承ください。

【内容】
18:55~19:00 暮村薬品より案内
●末梢神経障害対策について 光晴会病院 薬剤科
●専門医療機関連携薬局の現状 薬局 先生





- ①氏名 ②診療科 ③出身地
④趣味/特技 ⑤自己PR

医師



- ①岩田 麻有(いわた まゆ)
②腎臓内科
③長崎県
④ドライブ
⑤丁寧な診療を心がけ、皆様の生活に寄り添った医療を提供できるように尽力いたします。よろしくお願いします。



- ①吉留 愛(よしどめ あい)
②腎臓内科
③長崎県
④テニス・ピアノ
⑤患者様に寄り添う診療を心がけます。よろしくお願いします。

光晴会バスケットボール部

光晴会バスケットボール部は、当院からの支援もあり、「Sinus Rhythm」というチーム名で、長崎大学医学部主催のバスケットボール大会や社会人リーグHOOP LEAGUEの試合に参戦することが出来ています。

初期メンバーは全員ハーフです。平野オコエ、佐藤ボンバイエ、ダンプ黒澤、岡田リオン、マークみかこ、IGAエドゥーで4年ほど前から練習してきました。

練習や試合に参加しているのは院内の医師、看護師、臨床工学技士など多職種で、普段関わる事のない職種間でもバスケットを通してコミュニケーションをとることができています。

また、医療系に関連している業者の方々も練習に参加していただくことも多く、バスケットと仕事面で協力しあうことが出来ているのでwin-winな関係です。どこかで見える機会があれば応援の程よろしくお願いします。



私と野球の出会い

クラーク課 山口 和美

私と野球の出会いは、息子が小学1年生で野球チームに入ってから。

4人の子供達は全員野球やソフトボールを習い、チームにスコアラーがないからと自己流でスコアをつけ始め、もう20年近くになります。

息子が高校野球時代、甲子園出場が決まり、応援に行った聖地甲子園に感激した事は昨日のここのように覚えています。

あの大谷翔平選手でさえ、高校時代は1勝もできなかった甲子園。

泥臭く精一杯プレーする姿、多くのドラマを生む試合展開、ノーマークの高校の活躍、スターの出現、家族との絆等々、魅了されない人はいないでしょう。

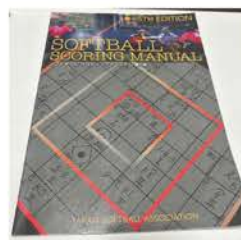
なので今でも毎年のように甲子園へ足を運んでしまいます。

息子が高校野球引退後社会人野球に入り、試合観戦に行っている時、『野球好きのお母

さんがいる』と軟式野球連盟からお誘いを受け、時間がある時は、ビッグNやかきどまり野球場などでアナウンスのお手伝いをしています。バックネット裏の特等席で試合観戦できるので、緊張はしますが、とてもやり甲斐はあります。

また、末娘がソフトボールのクラブチームに所属している時、スコアラー(第3種認定記録員)の資格取得し、娘が引退後もチームのスコアラーとして、試合に今現在も帯同し、ベンチの中から大きな声で応援しながらスコアをつけ続けています。

今の目標は、さらに勉強を重ね、第2種、第1種認定記録員資格取得し、ソフトボール協会で、全国大会や国際大会のスコアラーとなることです。野球、ソフトボールと出会わせてくれた、地元長崎に恩返ししたいと願っております。



外来週間診療予定表

2024年10月1日

	月	火	水	木	金
内科	ふくだ やすひろ 福田 康弘 (消化器)	まわたり ふみひろ 馬渡 文弘 (消化器)	ふくだ やすひろ 福田 康弘 (消化器)	まわたり ふみひろ 馬渡 文弘 (消化器)	しばた ゆういち 柴田 雄一 (一般)
	みやざき けんいち 宮崎 健一 (腎臓)	なかしき すぐる 中舗 卓 (消化器)	しばた ゆういち 柴田 雄一 (一般)	なかしき すぐる 中舗 卓 (消化器)	こうの よしひさ 河野 仁寿 (呼吸器)
	いずみ もともり 和泉 元衛 (甲状腺・肥満)	ひらの ゆうだい 平野 優大 (呼吸器)	こうの よしひさ 河野 仁寿 (呼吸器)	ひらの ゆうだい 平野 優大 (呼吸器)	いずみ もともり 和泉 元衛 (甲状腺・肥満)
	(非常勤) おおつか えみこ 大塚 絵美子 (一般)	いわた まゆ 岩田 麻有 (腎臓)	よしどめ あい 吉留 愛 (腎臓・一般)	いわた まゆ 岩田 麻有 (腎臓)	たがわ こうき 田川 孝樹 (腎臓)
循環器内科	こうの まさき 河野 政紀	いしざき まさひこ 石崎 正彦	くまもと たく 熊本 拓	こうの まさき 河野 政紀	いしざき まさひこ 石崎 正彦
心臓血管外科		さとう ひし 佐藤 久		くわの あきと 桑野 彰人	
泌尿器科	さかい すずな 酒井 すずな	やまさき やすと 山崎 安人	さかい すずな 酒井 すずな	大学医	やまさき やすと 山崎 安人
外科	おかだ かずや 岡田 和也	おかだ かずや 岡田 和也	いとう しんいちろう 伊藤 信一郎	つむ せいや 進 誠也 (おなかのヘルニアセンター)	つむ せいや 進 誠也 (おなかのヘルニアセンター)
	つむ せいや 進 誠也 (おなかのヘルニアセンター)	くろたき こうき 黒滝 航希	きしかわ ひろき 岸川 博紀	なかむら しん 中村 瞬	いとう しんいちろう 伊藤 信一郎 くろたき こうき 黒滝 航希
	なかむら しん 中村 瞬			きしかわ ひろき 岸川 博紀	(非常勤) やな せ しょう 柳瀬 翔 (形成外科)
糖尿病・ 内分泌センター	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	あかざわ しょういち 赤澤 昭一
	かはら ひろみ 川原 仁美	せら やすのり 世羅 康徳	せら やすのり 世羅 康徳	せら やすのり 世羅 康徳 フットケア	せら やすのり 世羅 康徳
【午後】 内科		おおつぼ としお 大坪 俊夫 (腎臓病疾患専門)		(非常勤) しみず としまさ 清水 俊匡 (リウマチ専門)	
【午後】 外科	つむ せいや 進 誠也 (おなかのヘルニアセンター)			つむ せいや 進 誠也 (おなかのヘルニアセンター)	つむ せいや 進 誠也 (おなかのヘルニアセンター)
【午後】 心臓血管外科		さとう ひし 佐藤 久		さとう ひし 佐藤 久	
				くわの あきと 桑野 彰人	

※ 診療科目：内科・外科・泌尿器科・循環器内科・心臓血管外科・消化器科・リウマチ科・リハビリテーション科・呼吸器科・腎臓内科・形成外科・肛門外科・糖尿病内分泌内科・麻酔科

※ 土・日・祝日 休診

予約制ですので、予約をお願い致します。

光晴会病院 地域医療連携室 TEL 095-857-3563 (直通) FAX 0120-573-632 (直通)

(コミュニケーションマガジン) 編集委員

編集・発行責任者：引地 啓太

編集スタッフ：水谷 (南3階) 山口 (北4階) 岩崎 (外来)

荒木・本村 (血液透析室) 林 (手術室)

中川 (臨床工学科) 下田・林田 (総務課)

増田 (顧問)

特定医療法人 **光晴会病院**

〒852-8053 長崎市葉山1丁目3番12号

TEL095-857-3533 FAX095-857-2572

http://www.kouseikai.org/